

久喜市議会

平成22年9月定例会

市政に対する質問通告

第1日目	質問予定議員(発言順)
9月8日(水)	①富澤孝至 議員 ②盛永圭子 議員 ③内田 正 議員 ④石川忠義 議員 ⑤田村栄子 議員 ⑥岸 輝美 議員 ⑦齋藤広子 議員 ⑧岡崎克巳 議員
第2日目	質問予定議員(発言順)
9月9日(木)	①石田利春 議員 ②園部茂雄 議員 ③木村奉憲 議員 ④春山千明 議員 ⑤松村茂夫 議員 ⑥鎌田忠保 議員 ⑦大鹿良夫 議員
第3日目	質問予定議員(発言順)
9月10日(金)	①鈴木精一 議員 ②杉野 修 議員 ③渡辺昌代 議員 ④梅田修一 議員 ⑤戸ヶ崎博 議員 ⑥宮崎利造 議員 ⑦青木信男 議員
第4日目	質問予定議員(発言順)
9月13日(月)	①鈴木松蔵 議員 ②猪股和雄 議員 ③並木隆一 議員 ④矢崎 康 議員 ⑤足立 清 議員 ⑥大谷和子 議員 ⑦上條哲弘 議員 ⑧井上忠昭 議員

3 高齢者の所在不明問題について。

- (1) 高齢者の一人ぐらしの家庭への訪問はどのようにしているのか。
また、一人ぐらしの方は旧1市3町それぞれ何名いるのか。
- (2) 家族の絆が弱い現在、行政のチェックはどのようにしているのか。
- (3) 戸籍上だけで生存している人はいないか。
- (4) 年金の不正受給、生活保護の不正受給者はいないか。行政ではどのようなチェック体制をとっているのか伺う。

③ 内 田 正 議員

1 降雹による特産「梨」の被害状況と救済支援対策について伺う。

さる7/26に久喜市を中心に近隣市町も降雹による農作物に大きな被害をもたらした。特に収穫を目前にした特産の梨は甚大な損害を被った。久喜市では合併により梨の生産量が県内第一位と名実ともに特産となったが、この雹災害により梨栽培を今年限りで止めてしまう農家もあるのではと危惧されるところである。県では降雹による被害を特別災害に指定し救済策を発表したと聞いているが、当局から被害の状況はいち早く報告はあったものの最終的に甚大な損害を被った被害状況はどの様であったか、また被災農家に対してどの様な救済支援策があるのか伺う。

2 防災無線の難聴区域（旧久喜市）解消工事の進捗状況を伺う。

防災無線は市民の安全のための情報伝達施設として大きな役割を果たしているが、地域によっては聴こえないとの声が、市民から寄せられ調査の結果、難聴区域の解消工事に向けて相当数の新たな設置工事が進められてきたものと思う。その改善された結果の状況や未だ難聴区域となっているその工事は、いつごろ迄に完成するのか進捗状況を伺う。又、合併した各町施設との統合は今後どの様にしていくのか併せて伺う。

④ 石 川 忠 義 議員

1 沼井公園は、本来の設置目的に沿った管理にすべきである。市の考えを伺う。

- (1) 公園設置から現在までの管理の経過を伺う。
- (2) ビオトープとしての位置づけと現状の認識を伺う。
- (3) 市民や団体から市への公園管理の要望事項を伺う。
- (4) 管理に係る市民参加手法の現状を伺う。
- (5) 公園の目的が分かる啓発をすべきであるが、考えを伺う。

2 声なき声を市政に反映させる市民参加手法として、市民討議会などでも取り入れられるようになった、無作為抽出型市民参加手法の「プラーヌクスツェレ」を久喜市でも採用すべきで

ある。市の考えを伺う。

- (1) この手法への市の評価と認識を伺う。
 - (2) 各種計画策定時にこの手法を取り入れるべきである。今後3年間で着手を予定している施策で、この手法を取り入れることが検討可能な施策・事業名を伺う。
- 3 市として、安心安全なまちづくりの「セーフコミュニティ」の認証取得の検討をはじめべきである。市の認識を伺う。
- (1) 現状での認証取得に関する市の評価と認識を伺う。
 - (2) 現状の市の安全・安心施策とセーフコミュニティ認証取得をした場合、前者と後者を比較して事業の有効性はどのように変化すると評価できるか、市の認識を伺う。
 - (3) セーフコミュニティ認証取得の検討をすべきであるが、認識を伺う。
- 4 自立支援給付費等の不正請求事件に関わる損害金全額の早期返還を急ぐべきである。前回議会後の経過と今後の取り組みについて、市の見解を伺う。

⑤ 田村 栄子 議員

1 男女共同参画について。

埼玉県男女平等度ランキング最下位の評価をどう受け止めるか。久喜市での男女平等度はいかがか。具体的な数字を示してほしい。また、今後の方針に向けての施策はどうか。

2 全国学力調査について。

全国学力テストの結果の扱い方はどうなっているか。

- (1) 抽出方式に移行後、久喜市の抽出中学校5校以外の学校はなぜ参加しなかったのか。
- (2) 全国学力テストを受けた中学生が過去の小学校時との比較はどのようになっているのか。
(小6と中3の比較)
- (3) テストの結果をどのように授業に生かしているのか。
- (4) 久喜市全体の学力向上に向けて、久喜市独自の今後の対策はいかがか。

3 災害時の救助について。

- (1) 市内に存在する地下道（鉄道や国道等の下）並びにU字溝の冠水時の対応はいかがか。
- (2) 高齢者の安否確認はどうするのか。
一人暮らしの高齢者および、昼間（同居家族の留守中）だけ一人暮らしの高齢者の災害時の救助に、どのような対策を用意しているか。
- (3) 学校・行政・民間（自治会・地域団体）のパートナーシップによる防災ネットワーク構築の考えを問う。

4 地球温暖化対策について。

- (1) 地球温暖化問題に関して市としての取組の現状、並びに今後の施策を問う。

- ア 市の取組の概要、取組の姿勢。
- イ 市庁舎・総合支所での実施状況。
- ウ 温暖化対策の一般市民への浸透状況、PR施策。
- エ エコライフデー（県）の一般への普及はどうか。
- オ 「地球温暖化防止」についての市内の自治会や団体への推進の考えはいかがか。自治会活動への温暖化防止推進委員の任命、環境活動奨励金（補助金）の交付の考えはどうか。
- カ 自治体からの環境啓蒙の積極的なアプローチは。
- キ 太陽光発電など代替エネルギーへの市内浸透状況と課題はどうか。

⑥ 岸 輝 美 議員

1 交通信号機の格上げを。

図書館通りと吉羽公園東側、太田小通り交差点には手押し信号機が設置されている。太田小通りは同校正門に通じる主要通学路である。通常信号機への格上げを求めるものだが。

2 中落堀川の河川浄化を求める。

旧久喜市街地を流れる「中落堀川」は最近多くの部分においてアシが生い茂り、よどみと悪臭を生じている。

浄化を求めるものだが。

3 全国自治体で所在不明の高齢者（100才以上）が相次いで発覚するという痛ましいニュースが報道されている。高齢者が安心して暮らせる地域社会を作っていくことは私たちの責務である。

- (1) 久喜市においては高齢者（100才以上）の所在不明などはないか。
- (2) 高齢者のみの世帯、または独居高齢者等の安全確認（見守り）の体制・仕組みはどうなっているのか。
- (3) 民生委員の方を中心に企業・ボランティア等による見守りサポーターの仕組みを考えてはどうか。

4 久喜市民まつりの将来像について。

平成22年度・第24回久喜市民まつりの準備が進んでいる。

- (1) 新市誕生後の新しい市民まつりのあり方（形態）を考えているか。（市民まつりの会22年度総会での実行委員長挨拶）
- (2) 統一する方向の場合、基本的に10月・11月に行われる菖蒲・産業祭、栗橋・やさしさときめき祭り、鷺宮・コスモスフェスタを日程的に可能な限り集約、「久喜市民まつりー菖蒲（栗橋・鷺宮）*****」として統一していく考えはどうか。
- (3) 従来通り別個に開催していくとしても。

ア 久喜市民まつりは規模、イベントの数等が市民ボランティアに手になるものとしては

限界に来ている。

行政・商工会・観光協会等との関係、会場等原点に戻り考えていくべき時期に来ているのでは。

イ 総合文化会館指定管理者による「フレンドシップディ」の企画が好評である。ドッキングもふくめ再考察の対象になるのでは。(シャトルバスの運行等)

⑦ 齋藤 広子 議員

1 赤ちゃんの駅の新市の取組み拡大について。

- (1) 栗橋地区、鷺宮地区、菖蒲地区での赤ちゃんの駅の設置状況はどうか。また、その拡大については、如何か。
- (2) 県の「赤ちゃんの駅」設置事業費補助金の企業や商店の活用状況はどうか。この補助金は10月26日が期限と聞いているが、それまでの更なる利用への啓蒙について伺う。
- (3) 赤ちゃんの駅を市民の皆様へ浸透させる啓発運動は、どのように取り組んで来られたのか伺う。また、更なる啓発活動の取り組みが必要と考えるが、今後どのように取り組んでいく考えか伺う。

2 買い物弱者への取組みについて。

- (1) 高齢者また障がい者の方などの買い物弱者の方に宅配マップを市で作成しては、如何か。
- (2) 現在、買物難民と呼ばれる状況が青葉団地などに現実起っている。そのことに関し、市としてどういう対応をしていくのが問われる。まず、商工会などに協力を要請しては、如何か。

3 5歳児健診の推進について。

- (1) 5歳児健診は、3歳児健診と就学時健診までの橋渡として、主に発達障害の早期発見を目的に始めるべきと思うが如何か。
- (2) ADHDやLDは、3歳児では、見過ごされやすく、5歳児頃になると発見されやすくなる。就学直前では、親がその事実を受け入れるまでの時間が少なく、適切な対応、心構えを築くためにもある程度の時間が必要であると思うが、どうか伺う。

4 子育て中の母親に家事支援サポーターについて。

- (1) 久喜市においての乳幼児、児童への虐待の件数とその後の状況について伺う。
- (2) 子育て家庭の負担軽減や精神的なフォローを行う為の家事支援サポーターを市の取組として行っては、如何か。

5 図書館のホームページについて。

- (1) HPから本をリクエストした時点では自分が何番めの予約かがわからない。24時間後にキャンセルができなくなると、何番待ちかがわかるようになっている。しかし、予約を入れた時点で何人待っているかがわかれば、こんなに待っているのなら、止めよう、とか、

覚悟ができるが、今のHPではできない。他の図書館ではできる。何とかならないか。

- (2) また、24時間経過すると今度は、キャンセルができなくなる。大勢の方が待っている間に、本に対する興味を失ったり、或いは何らかの手立てで本を手に入れたり、状況はいろいろ変わる。しかし、今は、1回予約を入れるとキャンセルできなくなっている。他の図書館ではいつでもキャンセルを受け付ける。利用者が利用しやすいように直すべきだと思うがどうか。

⑧ 岡崎克巳 議員

1 学校の施設改修、改善について。

児童、生徒が一日の大半を過ごす学校での教育環境の充実には、これまでも積極的に取り組んできた。新市になり学校間での格差の解消や充実にさらに力をいれていかなければならない。そこで、以下4点について伺う。

- (1) 体育館の老朽化、及び改修（床など）が必要なところは早期に取り組むべきだが、いかがか伺う。
- (2) 普通教室、PC教室への空調設備の設置は必要であるが、どのように考えているか、伺う。
- (3) 音響設備の不具合や機器の不足などがあると聞くがどのように対応するのか、伺う。
- (4) トイレの改修、臭気対策はどのように考えているか。また、臭気にはオゾン洗浄が有効だがどのように考えているか、伺う。

2 文化、スポーツ団体への取り組みについて。

これまで各種団体は、文化やスポーツはもとより地域やまちの発展に大きく寄与してきた。新市になり活動範囲も広くなり期待も大きい。市としては各種団体の統合に向け、リーダーシップを発揮しなければならない。どのように取り組むのか伺う。

3 道路整備について。

市道久喜6号線の整備は長年待たれているところである。なかでも、下早見の仏供田落沿いの道は、道幅が狭く朝夕の通勤時間は大変混雑している。早急な整備が必要である。どのように取り組むのか伺う。

【第2日目 9月9日（木）】

① 石田利春 議員

1 後期高齢者医療制度における保健事業の助成について。

後期高齢者医療制度については、国の見直しが進んでいるが、結論までには一定の時間を要する状況にある。国保で実施している人間ドックや保養施設などへの補助を、後期高齢者医療制度においても検討を進めるとの答弁があった。検討結果を伺う。健康診査の費用負担についても伺う。

- (1) 人間ドック助成や保養施設利用宿泊補助の実施については、埼玉県内70%の自治体で実施中であり、埼玉県後期高齢者広域連合においても、各自治体での実施を促している。市ではどのように検討したのか伺う。
- (2) 厚生労働省からの特別調整交付金について確認はしたのかどうか伺う。
- (3) 前回質問において、「ただちに実施を」と質問したが、実施時期については、どのように検討したのか伺う。
- (4) 健康診査の自己負担額は500円であるが、埼玉県内では無料にしている自治体も多くある。県内の状況を把握しているか。そして、無料にしている自治体の考え方も把握しているか伺う。
- (5) 健康診査は健康維持に大きな役割を果たす。1人でも多くの人々が健康診査を受診し、健康維持を高めるためにも無料にすべきと考えるが市の考えを伺う。

2 健康福祉センター（くりむ）について。

健康福祉センター（くりむ）は、旧栗橋町において唯一の「おふろ」のある施設であった。しかし、2008年4月から修繕・修理にかかるメンテナンス費用の増加を理由に、多機能浴室、浴室、などの施設を当分の間休止としている。再開の予定について伺う。

- (1) 久喜地域においては高齢者福祉センター「いきいき温泉久喜」、菖蒲地域には、菖蒲老人福祉センターなど「おふろ」を使用できる施設がある。鷲宮、栗橋地域にも、「おふろ」の施設を再開してほしいという市民の大きな声がある。早急に再開すべきだと考える。再開に向けて市の対応を伺う。
- (2) 「くりむ」では、トレーニング施設や子どもの遊び場は現在も使用しており、汗を流した後、せめて、シャワーなどを使用できるようにしてほしいという市民の声がある。「シャワールーム」「浴室」だけでも、先行させて再開を目指すべきだと考えるが市の対応はどうか伺う。

3 草刈りの管理について。

今年の天候は高温多湿と草が伸びるのには絶好の気象条件となった。草が伸びているにもかかわらず放置されている状況が多数見られた。草刈りの管理について伺う。

- (1) 人間の背丈以上にも伸びた草をそのまま放置することは交通安全、治安維持、環境悪化、防火対策などの面から許されないと考えるが、市の見解を伺う。

- (2) 市が管理する地域は、河川、空き地、公共施設などあると思うが、次に上げる地域の草刈管理状況を伺い、市の草刈に対する対応を伺う。
- ア 栗橋東中学校北側の用水路はどのような管理になっているか。
 - イ 栗橋東五丁目、125号線際の市道脇の管理はどのようになっているか。
 - ウ 鷲宮上内1272、青毛堀川、御蔵橋近辺。市道脇の管理はどのようになっているか。
 - エ 年間の草刈り回数や場所などどのように決めているか。又、草の伸び具合によって、予定を見直すなどの対応は考えているか。
 - オ 旧一市三町とも、共通の基準で、草刈を実施しているのか。
- (3) 市有地ではない地域。個人所有の空き地や、法人管理、組合管理などの草刈管理は、どのように対応しているのか伺う。
- ア 中央4丁目 ヨーカドー北側 市の中心部であるが草刈りが放置されている状況が見られる。市の対応を伺う。
 - イ 空き地の草が伸び放題の場合、市の対応はどうしているか。所有者が不明のときどうしているか。
 - ウ 市民から苦情の連絡が市に来た場合、対応はどのようになっているか。
 - エ 菖蒲地域において、小学校の草取りは子ども達を中心に、地域の方と一体となって対応している。合併前と、合併後、どのように草取り処理をしているのか把握状況を伺う。

4 高齢者の孤独死亡をなくすために行政の果たす役割について。

「100歳以上の方が数十年前から行方不明」というニュースは驚きをもって受けとめられている。しかも全国では数十人の方が行方不明になっているという。長生きを喜びをもって迎えられる久喜市でありたいという願いから、久喜市において高齢者の方へ行政の果たす役割について伺う。

- (1) 久喜市において90歳以上の方で行方不明の方はいるか。又、戸籍上から見ていかがか。
- (2) 久喜市における孤独死亡の方の人数を把握しているか。
- (3) 久喜市における高齢者(65歳以上)で1人住まいの方は何人で、住民税の支払いを免除されている方は何人かなど、生活状況を把握しているか。
- (4) 敬老祝い金はどのような方法で渡しているか。
- (5) 高齢者の世帯で、緊急時通報システムを使用されている世帯は何世帯か把握しているか。
- (6) 「高齢者白書」で、「孤立」から「つながり」そして「支えあい」という報告がされている。行政による見守りと支援など、どのような対策を考えているか伺う。
- (7) 民生委員の方とも連携し、定期的に訪問するなど、必要ではないか。市の体制はどうか伺う。

② 園 部 茂 雄 議 員

1 農産物被害の対応について。

7月26日の降雹による農産物（梨）の被害について、収穫直前の梨については特に甚大な被害が発生した。

そこで被害状況と救済措置について伺う。

- (1) 農産物（主に梨）の最終的な被害額を伺う。
- (2) 被害が発生した直後の市の対応はどうだったか伺う。
- (3) 今回の雹被害において農業災害補償法に基づく補償額はどれくらいか伺う。
- (4) 腐敗した梨の処分について、個人が処理できる範囲を超えた量を処分するために、様々な方法で処理したようだが、今回の様な場合に市が一括して腐敗した梨の処分を行う支援策を考えるべきと思うがいかがか伺う。

2 地下道の安全対策について。

最近の異常気象は予測困難であり、ゲリラ豪雨等により、設定値を超える雨量に道路冠水が発生し、2年前に鹿沼市のアンダーパスの冠水により、同所を通った女性が死亡する事故が発生したことは記憶に残る所である。

この事故をきっかけに緊急点検が始まり、安全対策の機器も同時に開発されてきた。

それは冠水の水位を測り、設定値を超えるとエア一遮断機が通行止めにするような機器が開発され、さいたま市では既に導入したと聞いた。

そこで以下の点について伺う。

- (1) 久喜市内に近年、冠水した道路は何カ所あるのか、また、それらの通行止めとする基準と運用はどうなっているのか。
- (2) 久喜市でも、もっとも危険な箇所にエア一遮断機等の設置を検討してはいかがか。

3 清久地区の工業団地の状況について。

久喜市は新たな自主財源の確保のために、清久北中曽根地区に工業団地を誘致することを決め、民間開発で組合代行方式により、計画が進められている。

そこで以下の点について伺う。

- (1) 現在の進捗状況について伺う。
- (2) 新たに造成される工業団地について、市の税収見込み、雇用見込みを伺う。

③ 木村奉憲 議員

1 介護保険施設の改善と充実を。

最近、厚生労働省の社会保障審議会（介護給付費分科会）が介護保険施設の個室面積の最低基準を引き下げること了承した。生活空間を狭めることは生活権や人権・尊厳に逆行することで問題である。また、特別養護老人ホームや介護老人ホームの国の全個室化を推進する中で、低所得者にとって重い居住費問題や多くの待機者問題が自治体や社会保障審議会で論議されている。このため、老人保健施設の改善と充実のため、以下、質問をする。

- (1) 市内の介護保険施設の現状は。個室と4人部屋など相部屋などの設置状況は。
- (2) 個室面積の基準引き下げは人権面でも大きな問題があるのではないかと。基準の引き下げは止めるべきだ。
- (3) 個室の「ユニット型」特養ホームの居住費が重いため、とくに低所得者が入所できない問題では、居住費・食費の自己負担が大きい。低所得者も個室型を利用できるように国の補助を行う。生活保護も個室型利用を認め、低所得者に対する食費・居住費の補助をするなど、県や、国に要請するべきだ。
- (4) 市内の介護保険施設の待機者を解消するための具体的な計画とその展望を明らかにすべきだが。

2 雇用確保と中小零細業者や関連の地域経済対策を。

最近の実質GDPの成長率は低迷、地域の経済は先行きが見えないままである。相変わらず派遣切り、雇い止め、解雇など最近の雇用をめぐる状況もいまだに深刻である。失業率も悪化し、生活困窮者も増加している。市内の雇用を確保し、地域経済を活性化するために、中小零細業者への対策を具体化することが緊急に必要である。このため、以下の点について質問する。

- (1) 今年度の市の緊急雇用対策での具体化とその実行スケジュールは。今後の補正予算等を拡充するべきだが。
- (2) 市内の派遣切り、雇用をめぐる状況とその後の対応と就労支援の具体化策はどこまで進んでいるのか。
- (3) 市の企業への雇用確保と正社員化へ指導を。
- (4) 中小零細業者への対策は。就労支援や営業保障のため融資等の改善を図るべきだ。
- (5) 小規模登録への活用状況と住宅改修などの助成を。

3 生活保護をめぐる状況と老齢加算の復活を。

最近の不況や雇用情勢を反映し、生活困窮者が増大し、生活保護の申請者も増えている。3町の窓口対応が本庁で受理申請審査することになり、その誠意ある対応が求められる。その中でかつてあった老齢加算が2007年に廃止され、多くの関係者から、復活を望む声が出ている。このため、生活保護行政の現状とその改善のため、以下の点を質問する。

- (1) 新市での生活保護をめぐる状況と最近の申請事務処理件数とその特徴は。
- (2) 窓口でケースワーカーの担当件数や対応の状況は。
- (3) 高齢者の被生活保護者の現状は。
- (4) 老齢加算の廃止後の状況をどう認識しているのか。
- (5) 老齢加算の復活を国に働きかけるべきだが。

4 「買い物難民」問題と地域商店街の活性化を。

全国で600万人以上といわれる「買い物難民」問題は、市内でも深刻である。青葉団地やわし宮団地でのスーパーの撤退や中心街でのスーパーや近郊のコンビニなどの撤退で、多く高齢者や車を持たない人や障がい者などの弱者が、日常必需品の買い物が出来なくなったり、重いものを運んで来ざるを得ないなどの問題が出ている。このため、以下質問する。

- (1) 青葉団地やわし宮団地のスーパー撤退のその後の状況と地域の状況は。
- (2) 「買い物難民」問題についての国の対応状況と市の対策は。具体的な買い物サポーター制度などの創設を。
- (3) 該当自治会や地域住民と連携をとって、その具体的な協議と対策を早急にするべきだが。
- (4) スーパーの再開をJAや商店街、商工会などと連携し、検討し、それへの援助、具体策を図るべきだ。

5 大型店などの遊歩道（小公園）の確保と安全・利便性の改善を。

市内の大型店での小公園や遊歩道、緑地帯の設置が開設後、閉鎖されたり、なくなっている。買い物する市民等などから、安全や利便性から復活し、改善してほしいとの声がある。このため、以下の点で質問する。

- (1) セブン&i（ヨーカドー）の駐車場脇に設置されていた買い物歩道を兼ねた小公園が閉鎖後、民間の駐車場となった。安全で利便性がなくなったとの市民の声がある。このようになった経緯と改善は出来ないのか。
- (2) ロチャースの店内入り口と駐車場につながる小公園（遊歩道）が閉鎖された。これについてもその経過と現状は。その復活を望む声が利用者からあるが。
- (3) 大型店の開設にあたっての空間、緑地帯、遊歩道、小公園などの設置基準と運用のあり方はどのようになっているのか。

④ 春山千明 議員

1 老朽化が著しい久喜市立さくら保育園、すみれ保育園の建て替えを早急にするべきであるが、いかがか伺う。

- (1) 久喜市では、老朽化の現状をどのように考えているか、伺う。
- (2) 久喜市次世代育成支援行動計画の後期計画では保育所施設整備事業として保育所整備計画を策定するとしている。策定までの具体的計画を伺う。
- (3) 保育施設更新事業を実施する予定であるが、調査の後、できるだけ早く建て替えについて計画を立て、実施すべきである。久喜市の考え方、また計画を具体的に伺う。

2 久喜地区の学校給食は、米飯供給方式はお弁当箱使用の盛り付け方式からお茶碗によそる飯缶方式に変わった。

評価し、歓迎する声を聞く。しかし、一方で、残念ながらその意義や効果があまり児童、生徒、保護者、地域などに認知されていない実情もある。

意義、効果を広く周知するべきであるがいかがか伺う。

- (1) お茶碗によそる飯缶方式に変更したことに関する、教育委員会としての方針と考えを改めて伺う。
- (2) お茶碗によそる飯缶方式に関する意義と効果について、これまでどのように周知をしたか伺う。
- (3) 学校関係者などだけではなく、食育の視点から、その意義と効果を広く広報するべきであるが、考え方を伺う。

3 公共施設の利用料金は例規上、当日までに支払えば良いことになっている。市公共施設利用ガイドブックでもそのように案内をしている。

しかし、施設によっては、利用する数日前から申込者に支払いを催促する連絡を入れている。利用料金未納の当日キャンセルを防止したいという市・教育委員会の考えも理解できるが、あくまで申込みを頂いた利用者＝お客様という観点から誠実な対応を心がけるべきであるが、市・教育委員会の考え方を伺う。

また、公共施設予約システムでは、第2体育館の高校生以下の利用料金を提示していない。改善すべきであるが考え方を伺う。

- (1) 合併から今までの公共施設の当日キャンセルの概況を伺う。
- (2) 現状では、利用料金の支払いについて、予約申込時にどのようにお願いをしているか。電話、窓口、公共施設予約システムによるそれぞれの予約時での対応を伺う。
- (3) 予約申し込み時に利用料の支払いがされていない場合、利用料支払いの催促をいつごろ、どのような方法で行っているか、伺う。
- (4) 公共施設予約システムからは、利用料の支払い期日、方法についての説明が不足している。改善すべきであるが、市の考えを伺う。

⑤ 松村茂夫 議員

1 孤立する高齢者の見守りについて。

社会に適応できず孤立する高齢者が市内の団地にも見受けられる。現状の民生委員の頑張りにも限界がある。こうした高齢者の見守りや対話について民生委員をサポートする組織を考えられないだろうか。

2 救急救命センターへの支援について。

わが久喜市に待望の救急救命センターが来年9月1日に済生会栗橋病院にオープンする予定である。脳と心臓の救急救命が約束される。久喜市の重点施策、医療資源を活かした安心できる地域完結型の高度医療に大きな役割を果たすものと期待する。行政としてどう対応する考えか。

3 広域物流について。

6月議会で質問した広域物流について、わずかな時間しか経過していないが、努力と動きはどうか。

4 ひょう害農家の支援について。

特に特産なしについて、1年間大事に育てたなしが、収穫直前で降雹の大被害を受けた。防雹ネットのない弱者を直撃したのである。このショックはただならないものがある。行政としてどんな配慮や支援を考えているか。

⑥ 鎌田忠保 議員

1 農業問題。

旧菖蒲町では、町で材料を支給して施工は農家が行って田圃の土堀の用、排水をコンクリート製品に変えて良い結果が出たが、新しくなった久喜市ではその様な方法は考えていないか。

2 市道菖蒲17号線の改良について。

町道1級路線でありながら未改良の砂利道なので、町から地権者へ道路改良の協力依頼をしておいて、地権者が同意をしても、一向に工事着工の様子が無いが、新市として、どの様に善処して頂けるか。

3 菖蒲町のブルーフェスタは今後どのように考えているか。

(1) アヤメ園とラベンダーの管理。

アヤメ園は平成元年から始まって以来、アヤメの花が一番悪かったが管理に手抜きがあったのではないか。

(2) チャリティ事業として、ブルーフェスの出店者から社会福祉協議会へ売り上げの5%を協力金として納めているが、今後はどのようになるか。

⑦ 大鹿良夫 議員

1 高柳の民地に野積された廃タイヤの撤去について。

(1) 蚊の発生状況と環境対策を問う。

(2) 撤去に向けての行政指導方策について問う。

(3) 廃タイヤの早期撤去を強く求める。

【第3日目 9月10日（金）】

① 鈴木精一 議員

1 景気後退局面の影響について。

市税減少、雇用情勢悪化が目前に迫っている。欧米のリセッションに加え、円高・株安の同時進行が景気の足を引っ張り、近々に金融政策の劇的な転換がなければ2番底または底割れへと繋がる景気後退局面に入る懸念がある。本市でも、本年から来年にかけ市税減少、雇用悪化が表面化すると予測されるだけにキチンとした方針を打ち出すべきではないか。以下の項目で伺う。

- (1) 劇的な政策転換があると捉えているか。ないと捉えているか。その場合、どんな影響が本市に及ぶと捉えているか。
- (2) 現状でも雇用は厳しい。更なる雇用情勢悪化にどう向きあう考えか。
- (3) 行革の前倒しを行うべき。更なる行革をどう進めるのか。

2 降ひょう被害について。

7月末の降ひょうで梨を中心に本市農業に甚大な被害があった。農業就業者の高齢化・後継者難の中で、今回の降ひょう被害は農業の継続に大きな影響がある。降ひょうがあっても乗り切れる体制が築くことが出来るかは、本市農業、特に梨農業の将来を占うことになる。降ひょう問題を総括するとともに、自然災害に負けない、くじけない農業を築く必要がある。

以下の項目で伺う。

- (1) 降ひょう被害の総括。現状、影響、今後の対応。
- (2) ひょう害農産物を普通に流通させることが必要。
どの程度流通させることができたか。
更なる販路拡大は可能。どんな取り組みを行う考えか。
来年を見据え、ひょう害などの被害にあった農産物を流通させる体制を考えるべき。
- (3) 降ひょう被害を防ぐ対策を充実させるべき。
防ひょう網の現状は。補助拡大などの環境整備を。

3 高齢者の行方不明問題について。

社会問題化した高齢者の行方不明問題。各自治体で独自調査が開始され、日々新たな不明者が報告されている。本市ではこの問題とどう向き合い対応されるのか、以下の項目で伺う。

- (1) 本市では高齢者の把握はどのように行ってきたか。
過去、問題報告はされていないか。どう対処してきたか。
- (2) 問題発覚後、高齢者の把握は各自治体で独自調査が開始されている。本市はどう対応をとるのか。

4 商店街活性化へのアプローチ。

「ネオロータス」という取り組みがある。これはミシュランの地域版のような取り組みで、若手経営者の発想から始まったもの。魅力ある店作りに励んでいる仲間同士が相互のレベル向上を図りながら地域活性化を目指す取り組みで、徐々に浸透してきている。民間活力を取り入れた商店街の活性化策で、行政も側面から支援している。本市もこのような取り組みを行い商店街の活性化に役立てるべきと考える。

考えを伺う。

② 杉野修 議員

1 市職員の労働環境・労働条件の改善について。

(1) 現在、本庁舎、各総合支所では定時に空調を停止させているが、事務環境での公務に効率性や快適性で問題が出ていると思われる。住民へのサービスの向上を図る観点から以下伺う。

ア 現在、本庁舎、各総合支所とも定時には空調を停止しているが室温を判断し、必要に応じて運転を継続するよう改善をはかられたい。

(2) この間、全国的に公務員、特に臨時職員における「ワーキングプア」の存在が出てきている。

ア 本市の臨時職員のうち一般事務、保育士の時給額と県内順位について伺う。

イ 本市が雇用する職員数全体における臨時（非正規雇用）職員の割合を伺う。

ウ 臨時職員の「時給の引き上げ」と「希望者の正職員化」を進めるよう求める。

2 火災報知機設置について。

消防法改正で設備・設置は平成21年4月から施行になった。

「自動火災報知設備」の設置義務化にあたり、整備を促進し、住民の生命と財産を守る立場から以下の点を伺う。

(1) 久喜市の設置の現況、設置率。

(2) 高齢者福祉施設などの設置状況を具体的に。

(3) ひとり暮らしの高齢者宅への設置状況。また、今後、住民が設置の際、市の独自補助を求める。

3 栗橋駅西区画整理事業について。

本事業は新市にとり、将来にわたって大きな財政負担となることは明らかである。今後「同じ轍」を踏まないためにもしつかり検証をする必要がある。以下伺う。

(1) 旧栗橋町大利根町が本事業を始めてからこれまでに

ア 支出した総費用（またそのうち栗橋分）。

イ 保留地売却などの総収入（うち栗橋分）。

ウ これまでの赤字分（うち栗橋分）。

(2) 事業終結までの赤字予想額はどのようにみているか、また、その原因を自治体運営の立

場からどうみているか、を伺う。

- (3) 公園整備状況は当初の計画通りか、今後の予定を伺う。
- (4) 「つけ保留地処分」などの残事業の現況と、今後の計画を伺う。
- (5) 今後の元利償還などの資金計画、財源手当てはどのようにしていくのか伺う。

4 久喜市内の各事業所・個人における地下水の使用について。

- (1) 先の予算議会では、市内事業所での地下水の使用について行政からは「把握していない」との答弁がされた。しかし現状において、旧4市町の事業所における地下水の使用が認められ、下水道料金徴収対象になる可能性があると思われるので以下の点を伺う。
 - ア 法人名と平成21年度の使用実績（立米）。
 - イ 各事業所の「汚水」の排水実態・方法。
 - ウ そのうち汚水処理料金を納めるべき事案、金額。
- (2) 21年度の数字がゼロの事業所・個人でも過去の使用実態にもとづき、徴収が必要な事案も出てくるが、どのように対応されるのか伺う。

③ 渡 辺 昌 代 議員

1 保育園の維持管理事業についての今後の取り組みについて。

昨年度旧久喜市平成22年2月議会で質問をした、さくら保育園・すみれ保育園・あおば保育園の3園の耐震診断結果と保育園整備計画について伺う。

- (1) 3園それぞれの耐震診断の結果とそれをふまえた市の考えを伺う。
- (2) 昨年度2月議会では、新市において早い時期に保育園整備計画を策定していきたいと答弁をいただいているが、早急に策定し、改築を急ぐべきと考えるがいかがか。

2 ガン検診について。

合併により、1市3町でかなりバラつきのあったガン検診などは合併時に統一となった。この件に関して、以下の点について伺う。

- (1) 胃ガン、肺ガン検診など驚宮では費用が高くなったが、費用の統一はどのようにしたのか。
- (2) 乳ガン検診は検診対象者をどのように考えたのか。
- (3) 子宮頸ガン検診、乳ガン検診の申し込みを延長した理由。
- (4) 結核検診は検診対象者をどのように考えたのか。
- (5) 大腸ガン、前立腺ガン検診は、栗橋区域の方のみ集団で行っているが、今後も継続すべきだと考えるが、いかがか。
- (6) それぞれの検診の期日は今後どのようにしていくのか。
- (7) 8月までのそれぞれの検診状況は昨年と比べてどうか。
- (8) 旧久喜市、菖蒲町で行っていたハガキによる検診のお知らせの個別通知を実施しなくなったが、その理由は、ガン検診の受診率を上げ、早期発見・治療を行ううえでも個別通知ハガキは必要と考えるが、いかがか。

3 降ひょうによる農作物の被害について

7月26日夕方、春日部、白岡地区から久喜市内に発生した降ひょうによる農作物の被害について伺う。

- (1) 農作物の被害状況はどれくらいになったか。
- (2) 特に梨の被害についてはどうか。
 - ア 被害面積。
 - イ 収穫が皆無となった面積。
 - ウ 被害農家数の全体は。
 - (ア) そのうち90%以上の被害が出た農家数。
 - (イ) そのうち50%以上の被害が出た農家数。
 - エ 被害見込金額は。
 - (ア) そのうち損失率が3割を超えた農家数。
- (3) 共済からは、被害金額をどのくらいまかなえるのか。
- (4) 今回の被害では、落胆する農家の声を聞いている。久喜の特産とする梨が衰退しないためにも被害に対する補助、防ひょうネットに対する補助など救済対策をするべきではないかと考えるが、いかがか。

4 特産品「久喜の梨」について

県内第1位となった久喜市の梨の生産量であるが、特産品としての「久喜の梨」と、久喜の梨を利用した商品を大きく全国に売り出してはどうか。

- (1) 学校給食で取り扱っている梨のパンがあるが、これをもっと様々な所で広められないか。
- (2) 産地直売としての「久喜の梨」と同様に梨のケーキ、梨のジャム、梨のパンなどをイトーヨーカドー、ヨークマート（モラージュ菖蒲）、JA直売所、コンビニなどで取り扱ってもらい大きく広げることはいかできないか。
- (3) 梨を使ったイベントは計画できないのか。
例えば、梨の料理コンテスト、梨を使った久喜市のマスコット募集、梨の絵コンテスト、梨の歴史や梨の学びの会、梨を育ててみよう など。

5 少人数学級の実現について。

先の6月議会で少人数学級の実施の要求をしたが、国において7月26日に「今後の学級編成及び教職員定数の改善について」の提言が出された。このことについて伺う。

- (1) 来年度からの実施と聞いているが、その概要は。
- (2) 県で特別措置を実施しているが、その兼ね合いは。
- (3) 市としての対応は。

④ 梅田修一 議員

1 ツイッターを活用した情報発信について。

情報発信ツールとしてのツイッターの普及が進み、利用者数は1000万人といわれている。ツイッターを活用することで、ホームページと並行して市民に対する情報発信を更に充実させることができると考えるが（現在のホームページの運用状況を含めた）現状認識と今後の方針について伺う。

2 本多静六博士の功績を教材に活用する取り組みと野辺地町との交流について。

- (1) 日本林学界の巨星といわれる旧菖蒲町出身の本多静六博士の功績は郷土の誇りであり、久喜市全体で生涯学習の教材として活用していくべきであるが取り組み状況について伺う。
- (2) 旧菖蒲町と友好都市関係にあった青森県野辺地町とは、新久喜市となってからも民間交流が継続している。現状報告と今後の友好都市としての取り組みについて伺う。

3 若者の定住促進について。

- (1) 今後の久喜市の生産年齢人口の推移について伺う。
- (2) 今後は自主財源の確保という観点から、久喜市内に若者の定住化を積極的に図っていくべきと考えるが、当局の現状認識と今後の方向性について伺う。

4 職員数の適正化について。

市町村合併の効果を高めるためには、行財政の効率化を推進していかなければならないが、職員数の適正化（10%削減）に向けた取り組みについて伺う。

⑤ 戸ヶ崎博 議員

1 選挙投票入場券について。

選挙投票入場券について、現在はハガキによる方法で行われている。またこの方法においても久喜市は改善を図ってきたところでもある。しかし近年選挙の投票が大きく変化してきた。

特に、期日前投票による比率が選挙のたびに高くなっている。そこでハガキの入場券から封筒による方式に検討してはどうか伺う。

- (1) 選挙人ごとの入場券と期日前投票の誓約書を同封した封筒による方式はどうか。
- (2) どこの選挙投票所に行けばよいか、わかりやすいように、投票所の地図を印刷してはどうか。

2 水道の老朽管の対策について。

最近、水道の老朽管に破損が生じ、赤水が出て、市民からは改善の声が上がっている。そこで伺う。

- (1) 老朽管の整備において、緊急に整備が必要とされる場所の把握は、また、その整備はどう進めるのか。

(2) 特に老朽管に関しての年次計画をたて、強力に整備推進をすべきと思うがどうか。

3 ご当地ナンバープレートについて。

新市誕生を記念、また、地域振興を図ると共に新市の一体感およびピーアールになる、ご当地ナンバープレートについて考えてはどうか。他市町でも実施している例えば原動機付き自転車（50cc以下）のナンバープレートを新久喜市をイメージするようなデザインにしてはどうか伺う。

⑥ 宮崎利造 議員

1 久喜市の耕作放棄地対策について伺う。

近年農業就労者の高齢化が進み、農地の耕作放棄地が増えて来ている。この対策として旧久喜市では、21年9月に対策協議会を設立し、放棄地の解消に向けて動きだしたが、そこで何点か伺う。

- (1) 21年度の決算と活動状況について伺う。
- (2) 22年度以降の活動をどのように考えているのか。
- (3) 市民へのPR、連絡はどのように考えているのか。

2 圏央道の側道整備について伺う。

圏央道本線工事は着々と進み23年には久喜ジャンクションから菖蒲、白岡インターチェンジまでの区間が開通する見込と聞いているが、側道整備の進捗状況について何点か伺う。

- (1) 上記区間の今後のスケジュールについて伺う。
- (2) 設計は国土交通省北首都国道事務所で行っているが、詳細については久喜との協議がなされていると思うが市は地元の意見を聞いてどのように進めて来たのか。
- (3) 今後、東北道の東側の整備も進めると思うが、地元の意見を設計に盛り込むよう国と協議してほしいがいかがか伺う。

⑦ 青木信男 議員

1 菖蒲地区新産業ゾーン、インター周辺の土地利用について。

- (1) 南部開発、北側から旧122号線マミーマートまでの土地利用について。
- (2) 温水プール（アクレ）から東側みさき公園までの住居ゾーンについて。

2 治水対策について。

- (1) 北部開発に伴う中堀下流の庄兵衛堀川の治水対策の見通しと県予算が22年度治水対策のための調査費が計上されたと聞くが現在の進捗状況を伺う。

3 交通安全対策について。

- (1) 久喜市道菖蒲7号線（みさき公園）の新設道路1844号線T字路交差点の安全対策。
信号機の設置と交通安全標識について伺う。

【第4日目 9月13日（月）】

① 鈴木松蔵 議員

1 道路整備について。

道路整備後、供用開始となるまでの警察との協議について（市道久喜7号線）

- (1) 3月に完成したが供用開始は8月26日頃であった。これだけ時間がかかった理由は。
- (2) 警察との協議の内容はどんなものであったのか。
- (3) 今後の対応は、どのようにするのか。

② 猪股和雄 議員

1 久喜駅東口、西口広場を禁煙とし、「喫煙スペース」を設置すべきである。

- (1) 東口、西口広場に特大吸い殻入れを設置したが、歩行喫煙者は減らないばかりか、逆に駅広場での喫煙者は増えている感さえある。また吸い殻入れ周辺がごみ置き場と化してしまっている。

これらの現状をどう把握しているか。

- (2) 現在は「広場のどこでも歩行中でも喫煙していい。吸い殻だけはここに捨ててください」という状態であって、実際には吸い殻入れのない場所で喫煙するのも吸い殻を捨てるのも放置されている。

吸い殻入れ周辺を「喫煙場所」として指定し、「それ以外の場所は禁煙」とするべきである。

当面、東口、西口広場において、喫煙場所以外の区域については、「禁煙」に協力を求めるべきである。

- (3) 久喜市においても路上喫煙防止条例を制定すべきである。

すでに県内17市以上で路上喫煙を防止する条例が制定され、禁煙区域が定められているが、久喜市の取り組み方針を伺う。

2 青葉けやき通りのけやき並木街路樹の適正な管理を求める。

- (1) 6月議会議案質疑でも触れたが、けやき並木の管理はこれまで、横に伸びる枝の住宅への支障を除去する他は、上方の剪定はほとんど行われてこなかった。その結果、周辺住宅に対して落ち葉による迷惑の他、最近では老木化による倒木や枝の落下の危険も増えている。改めて現状認識を問う。

- (2) 剪定には財政がかかるから、あるいは景観100選に入る並木だから、迷惑を受容すべき、損害が出たら補償すればよいという考え方か。

これまで適正な管理を行ってこなかったことが問題だったと思われるが、今後の取り組み方針を伺う。

3 市内4か所の障害者デイケア施設の運営と入所者選考の一本化を進めるべきである。

- (1) けやきの木が社協への指定管理、くりの木が社協への委託、ゆう・あいと趣味の家は市直営と、管理運営の体制が異なっている。入所希望者はけやきの木が社協へ申請して選考する他は、くりの木、ゆう・あい、趣味の家の申請先は市となっている。くりの木は委託であるが市の職員が配置されている。

入所者にとっては同じデイケア施設であり、入所申請、選考方法の統一、専門的職員（指導員）の配置、人事交流などの観点からも、管理運営を一本化すべきである。

その際、けやきの木、くりの木、ゆう・あい、趣味の家をそれぞれ、あるいは一本化しての指定管理が考えられるが、見解を伺う。

- (2) 現状では条例を見ても、入所申請の方法、選考、決定の過程が不透明である。入所者選考委員会の設置など、選考の透明化を図るべきではないか。
- (3) 特に、趣味の家の施設はきわめて狭隘（148㎡に入所者と職員20名）かつバリアだらけであり、老朽化も著しいが、改築あるいは鷺宮総合支所の空きスペースの利用を検討すべきである。

4 学童保育の一本化への道筋と、施設改善の取り組み方針を伺う。

- (1) 公設公営の、菖蒲地区の3学童、鷺宮地区の4学童を、久喜地区の9学童といっしょに学童保育運営協議会への委託という形で一本化していくという方向性が示されているが、今後、どのように進めるか。来年度からと考えられるが、関係する当事者である保護者や運営協議会との協議と準備のスケジュールを示されたい。

- (2) 菖蒲、鷺宮地区の7か所の公設公営の学童保育において、指導員は非常勤特別職の位置付けであるが、実態としては常勤に近いと思われ、勤務形態からしても非常勤特別職には適合しないのではないか。

旧菖蒲町時代には非常勤特別職で通勤手当が出ていたというが、現在はそれもない。諸休暇や手当についても実態に合わないのではないか。

指導員の位置付けを早急に見直すべきである。

- (3) 久喜、栗橋地区の学童保育の条例上の位置付けを明確にすべきではないか。

ア 久喜市放課後児童クラブ条例には菖蒲と鷺宮地区の8か所の学童保育だけが規定されているが、久喜地区の9か所の公設学童保育も条例で位置付けを明確にすべきではないか。

イ 栗橋地区4か所はいずれも公共施設に常設されていて、実態として「公設委託」に近いと思われるが、条例に明確に位置づけるべきではないか。

その場合に委託契約の締結か、指定管理への移行が必要と考えるが、見解を伺う。

あるいは施設の無償貸与ということであれば、それも明確にすべきでないか。

- (4) 保護者や指導員の意見を聞きながら、各施設の改善を進めるべきである。

ア 鷺宮地区の児童館学童保育クラブは約50名の児童と指導員5名が1部屋（50㎡くらい？）だけで過ごしていて、庭もなく、学校の校庭も使えず、外にも出られないという劣悪な環境である。独立の施設を確保すべきである。

応急的にでも別施設の利用、あるいは屋外での活動をできるようにすべきではないか。

イ 鷺宮地区の東コミュニティセンター学童クラブも40人が60㎡の1部屋で過ごしている。

施設内のトイレにも1人では行かせられない。保護者が迎えに来てわからないなど、施設面の問題と不備が多いので、早急に改善すべきである。独立の施設を検討すべきである。

ウ 栗橋地区のほほえみ児童クラブは、狭い部屋3部屋(?)を使用許可しているが、いちばん広い遊戯室には網戸もクーラーもない、子どもたちのカバンを置くロッカーもないなど、利用実態に合っていないと思われる。早急に改善すべきである。

エ 学童保育は、久喜市の子どもたちに基本的に同等な保育条件と同等な保育サービスを提供しなければならないはずだから、特に施設面やサービスの確保については、総合支所だけで対応するのではなく、久喜市保育課としての統一的な対応が必要である。

そのような視点で統一的に問題点を改善していくために、保育課と総合支所福祉課とでいっしょに、保護者や指導員、施設責任者と話し合っていくべきである。そのような場を設ける考えがあるか。

5 市からの発送文書に点字を必要とする視覚障害者の把握はどうなっているか。

- (1) 合併後、新久喜市内において点字を必要とする視覚障害者の調査をどのように行ったか。
- (2) 各地区ごとに、点字を必要とする視覚障害者の人数を明らかにされたい。
- (3) 合併後、視覚障害者に点字文書を発送した件数と人数、または封筒に点字シールを添付して発送した件数と人数を示されたい。
- (4) 点字以外の方法(朗読テープなど)で対応している視覚障害者があれば、その実態を明らかにされたい。
- (5) 『広報くき』『議会だより』の音声版を利用している視覚障害者数は何人か。

6 市民の健康を守るために。

- (1) 健康診査(ガン検診など)で、旧久喜市では実施していた個別通知を、合併と同時に廃止した理由を説明されたい。
- (2) 目前の財政節約と引き替えに、受診率の低下が予想されるが、保健行政の後退についての見解を明らかにされたい。
- (3) 個別通知を復活させるべきであるが、方針を伺う。

7 エイム問題と久喜児童クラブ問題の経過を明らかにされたい。

- (1) 障害者自立支援給付費不正請求事件に対する、エイム代表者たる荒井伸男刑事告訴以降の状況について、どう把握しているか。
- (2) エイム代表・荒井伸男に対する破産申し立て後の債権(損害金)回収の見通しを明らかにされたい。
- (3) 学童保育久喜児童クラブの不透明経理による春洋会・大熊氏に対する返還請求はどのように進んでいるか。
- (4) その現状について市民に報告すべきである。

③ 並木隆一 議員

1 新久喜市として、一体化のために。

- (1) 警察行政の一元化を求める。(久喜警察署と幸手警察署の管轄)
- (2) 都市計画の一元化を求める。(久喜・幸手・蓮田)
土地利用計画の方針と、都市計画道路の見直しについて。
- (3) 郵便事業の一元化を求める。(久喜郵便局と栗橋郵便局の管轄)
- (4) 各文化団体・スポーツ団体の一体化の状況は。
- (5) 小・中学校のスポーツ競技大会等の一元化の状況は。

④ 矢崎康 議員

1 自殺防止について。

- (1) 自殺の現状把握と分析は、どのように実施しているのか。課題と対策について伺う。
- (2) 講演会(市民向け)、市及び関係機関を対象にした「相談時のスキルアップ」と「相互理解と連携を図る場」としての研修会の開催等は、どのように取り組まれるのか。
- (3) 相談体制・啓発活動による情報提供の現状について。
- (4) 久喜市ホームページに、地域自殺対策緊急強化交付金を活用して、世田谷区のホームページにあるような、メンタルヘルスチェックが、携帯やホームページでチェックできるようにしてはどうか。考えを伺う。
- (5) うつ対策として、生きる力を引き出す仕事で学校・病院へ、対話士が出向いて対応している精神対話士の活用についての考えと、講演会の開催を提案する。考えを伺う。

2 ジェネリック医薬品(後発医薬品)の普及について。

- (1) 後発医薬品の使用促進と普及を図るため状況の調査を実施しては。
- (2) 金額ベースで何%を占めているか。医療費に占める薬剤費の比率は。現在の状況に対する評価と今後の方針について、伺う。
- (3) 医師会に積極的な使用を促進する対応は。久喜市としてどのような対応してきたのか。
- (4) 申し出がしやすくするための「ジェネリック医薬品希望カード」が様々な方法で活用をされている。このカードの配布・活用・市民への啓発をどのように考えているか

3 高齢者不明問題の認識と対応について。

- (1) 久喜市の実態について、どのように対応されたのか。
- (2) 100歳以下の把握については、どのように考えているか。(春日部は65歳以上になっている)
- (3) 民生委員の役割と、地域のつながりを今後どのように補完し合うのか。考えを伺う。
(65歳以上の独居高齢者・高齢者世帯に、救急医療情報キットを配布しては如何か)

4 弁当の日について

- (1) 市内小中学校における、弁当の日の現状は。
 - (2) 子どもたちのこころの空腹感を埋めたいと始まった弁当の日。特に子どもたちが一人で作る弁当の日が大変注目を浴びている。久喜市も先進地にならって、弁当の日を設けては、如何か。考えを伺う。
- 5 小学校23校の砂場の総点検をしていただきたいが、如何か。
一部堅くなって利用できない状況を確認した。
ただちに総点検をしていただきたい（小学校）。

⑤ 足立 清 議員

1 東鷲宮駅東西自由通路のバリアフリー化について。

東鷲宮駅東西自由通路のバリアフリー化について、早期実現が望まれているが、以下の点について伺う。

- (1) 東西自由通路のバリアフリー化を推進するため、橋上化を含めた基本調査を委託したが、調査内容について伺う。
- (2) 東西自由通路利用者の把握について、実態調査を提案するが市の考えを伺う。

2 プリンターインクカートリッジ里帰りプロジェクトへの参加について。

プリンター用インクカートリッジは年間約2億個が国内で消費されている。里帰りプロジェクトの目的は、①回収・再資源化、②地域社会と地球環境に貢献、を目的としている。自治体の費用負担は無く、回収箱キットの場所を公共施設等に提供するだけである。プロジェクト参加企業は、キャノン・エプソン・ブラザー等6企業が参加している。現在回収率は10%程度で他は焼却されている。

資源を無駄にせず再資源化に協力するためにも、里帰りプロジェクトへの参加について提案、実施をしてはどうか伺う。

3 中一ギャップ解消への取組みについて。

中一ギャップ解消へ向けて、旧久喜市では小中学校が連携した中一ギャップ解消の取組みがなされて来たが、22年度新市教育行政における、本市中一ギャップの実態把握と対策について伺う。

4 合併に伴う本庁舎の手狭解消について。

合併により、上下水道部を除く7部、35課、1センター、78係、及び教育委員会が本庁舎に集約されているため、空間スペースの減少が職員のストレスを招いていると感じている。また、職場環境改善の声も聞かれる。対策について市の考えを伺う。

- (1) 本庁舎の手狭を解消し機能強化を図るための対策について具体的な考えを伺う。
- (2) 納税相談に訪れた市民のプライバシー保護のため、現在の相談室では不十分との指摘があるが、市の認識について伺う。

⑥ 大谷和子 議員

1 児童虐待防止への取り組みについて。

大阪市で幼児2人の遺体が発見された事件は、児童虐待問題の深刻さを印象付けた。久喜市は児童虐待に対しどのように取り組んでいるか。

- (1) 児童虐待は深刻な社会問題であり、児童相談所への児童虐待に関する相談件数が年々増加の一途をたどっているが、久喜市での相談件数の推移は。またその内訳（身体的虐待やネグレクトなど、虐待の内容）はどのようなものか。
- (2) 児童虐待の早期発見や早期対応、虐待を受けた児童の保護などに、より適切に対応できるよう「児童虐待防止法」と「児童福祉法」の一部が改正されてきた。久喜市ではどのような対応をしているか。
- (3) 子どもを生むまで、一度も赤ん坊に触ったことの無いまま親になる人も多い、すぐに親になれるわけではない。生んでから少しずつ親になれるように子育て学習の場など親に寄り添う支援も必要ではないか。市の考えを伺う。

2 放課後子ども教室について。

学校、家庭、地域の連携により実施されている「放課後子ども教室」について伺う。

- (1) 市内小学校での「放課後子ども教室」運営の現状を伺う。
- (2) 先日、新たに桜田小学校で開設されたが、今後、新たに開設される予定・計画はあるか。
- (3) 平成19年度より「放課後子どもプラン」がスタートしている。文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成」を一体的あるいは連携して実施するものであるが、久喜市の「放課後子ども教室」は「放課後子どもプラン」として取り組まれているのか。

⑦ 上條哲弘 議員

1 学校教室への扇風機設置について。

この夏、日本列島は連日うだるような暑さが続き、9月から10月も平年より気温が高い状態が続くとみられている。そのため学校での集団熱中症も懸念されており、教室の環境整備は急務と考えるが、教室への扇風機設置について伺う。

- (1) 市内小中学校の教室への扇風機設置の状況は。
- (2) 本来なら夏前に検討されるべきと考えるが、未設置の教室への設置の予定はあるか。対応をどのように考えているか。

2 総合支所について。

総合支所の有効利用について、具体的な考えを伺う。

⑧ 井上忠昭 議員

1 合併後のまちづくりについて。

合併して5カ月が経過した。あえて半年近くを迎えるこの時点で、今後のまちづくりの方向性について企画・政策部門からお示し頂きたい。

2 子育て支援について。

子育て支援に関して、今回は次の点について伺う。

- (1) 子育て支援センターについて駅前開設の考えはないか。ネックとなっているのはなにか。
- (2) 園、施設同士の情報の共有の必要性や、子育て施設現場へ担当課が実際に行ってみて情報を得る必要性など考え方を伺う。
- (3) 子育て支援施設や赤ちゃんの駅などでの、わかりやすい情報発信のあり方について。

3 防犯灯について。

前提として、防犯灯は旧久喜市、旧3町で、設置の方法に違いがあり合併後2年以内に統一となっている。旧久喜市は「防犯は地域から」の考えで、行政区からの要望によって、それに補助していく考え方も理解できる。

しかし、これは、犯罪が実際に発生し、対応策で防犯灯が考えられる有効な対応である場合、市としてはどう対応できるか。実際に犯罪があったとされる市道8022号、8024号、8063号、8064号線までの区間、市道8003号線を例に伺う。

4 選挙について。

開票作業について次の点を伺う。

- (1) 事業仕分けで削減を受け、影響を受けた点と工夫した点。
- (2) 参議院議員選挙の開票作業で時間がかかったが、なぜか。それは1との関係か。
- (3) 今後、県議会選挙が春にあり、3選挙区にまたがることになるが開票作業の体制についてどうするのか。